

平成29年度愛知県がんセンター公開講座(第4回)のご案内  
「進化する肺がんの治療法」  
= 平成29年11月25日(土)開催 =

< 講師からのメッセージ >

「肺がんの最新の知識」

肺がんの治療法は飛躍的に進歩してきています。その理由は、肺がんのドライバーがん遺伝子変異（がんの増殖に直接関連している遺伝子の異常）が発見されたことにより、がん遺伝子異常に対する最適な治療薬（分子標的薬）の作製が可能になり、それぞれの肺がんの遺伝子異常のタイプに合わせた治療薬を選択すること（精密治療の施行）が出来るようになったからです。さらに、肺がんにも有効な免疫療法も開発され、外科療法、放射線療法と組み合わせる肺がんの治療法は進歩しています。

呼吸器内科部 部長 樋田 豊明

「肺がんの薬物療法について」

進行肺がんの治療において最も重要な役割を果たすのが薬物療法です。近年の肺がんの薬物療法の進歩は目まぐるしく、次々に新しい薬剤が世の中に出てきています。遺伝子変異のタイプによって治療薬を使い分ける「分子標的治療」、がん細胞に対する免疫反応の抑制を解除する「免疫治療」などが特に注目されています。一方で、こういった新しいお薬だけで肺がんの治療が完結することは少なく、「従来の抗がん剤」による治療をうまく組み合わせることが重要となります。それぞれのお薬の特徴についてできるだけ分かりやすく解説したいと思います。

呼吸器内科部 医長 渡辺 尚宏

### 「高齢者にやさしい定位放射線治療」

放射線治療機器、治療技術は急速に進歩しています。高精度の治療が可能となり、治療効果も飛躍的にあがっています。放射線治療は切らずに治すことが最大の特徴と言えます。現在日本は高齢化社会を迎えています。必然的に癌患者さんの数は増加していきますし、また高齢で手術ができない患者さんも増えていくと予想されます。当院は高精度放射線治療のひとつである定位放射線治療がどのようなものかお話しさせていただきます。

放射線治療部 医長 富田 夏夫

### 「最新の肺がん手術について」

肺癌に対する標準手術術式はこの20年来、肺をブロックごと切除する肺葉切除とリンパ節郭清であります。近年では診断機器の精度向上に伴い、早期肺癌が多く診断されるようになってきています。早期肺癌の一部には切除範囲を小さく（呼吸機能の温存）しても根治性が損なわれない可能性が示されています。当院では呼吸機能の温存手術（区域切除）を主に体の負担の少ない胸腔鏡で行っています。また薬物治療、放射線治療の進歩に伴い、切除不能とされた進行肺癌が内科的治療後に切除可能となる場合も増えてきています。

呼吸器外科部 医長 水野 鉄也